

トビウオ通信 (H27 第 8 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 27 年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成 27 年 10 月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海南西海域の対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類の平成 27 年度下半期（11～3 月）の中・長期的な漁況を予測します。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 27 年度下半期(11～3 月)〕

マアジ:前年を下回る

マサバ:前年並み

マイワシ:前年を上回る

カタクチイワシ:前年並み

ウルメイワシ:前年並み

※ 平年：過去 5 年間の平均値

マアジは前年を下回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 平成 19 年まで減少傾向にあった東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成 20 年からやや増加傾向となり、平成 23 年は約 4 万 6 千トンとなりました（図 1）。平成 24 年は再び減少に転じてその後横ばいとなり、平成 27 年 1～9 月の漁獲量は約 3 万 4 千トンで、前年をやや上回っています。

沖合域の今後（11～3 月期）の漁況は、来遊量が前年並み、また、直近の漁況や調査船調査の結果などから前年並みになるとみられています。一方、同海域の沿岸域における平成 27 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年を上回りました。今後（11～3 月期）の漁況は、前年・平年並みになると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量は平成 16 年以降 2～4 万トン前後で推移しています（図 1）。平成 27 年の 1～9 月のマアジ漁獲量は約 1 万 8 千トンで、前年同期の 7 割、平年同期並み（1.0 倍）でした。今年は 3 月と 5 月に 4 千トン程度の漁獲がありましたが、6 月以降は平年並みから平年を下回って推移し、9 月の漁獲量は約 7 百トンとなりました（図 2）。

例年、11～3 月期は 0 歳魚、1 歳魚が漁獲の主体で、2 歳魚以上も漁獲されます。長期漁況予報会議では、マアジ 0 歳魚（H27 年生まれ）の豊度は前年を下回ると予測しています。

毎年、島根県、鳥取県および日本海区・西海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査*（マアジ 0 歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を大きく下回り、中型まき網漁業においても 0 歳魚は殆ど漁獲されず、島根県における 0 歳魚の豊度は前年を下回ると考えられます。また、1 歳魚

*マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信 H27 年第 6 号（平成 27 年 7 月 28 日発行）」をご覧ください。

(H26 年生まれ) と 2 歳魚 (H25 年生まれ) の豊度は、これまでの漁況経過から、前年並みか前年を下回ると考えられます。さらに、10 月の中型まき網によるマアジ漁獲量は約 1 千トン (速報値) で前年・平年を大きく下回っており (平年の 2 割程度)、この事から、山陰沖の今後 (11~3 月期) の漁況は、好調であった前年 (約 1 万トン) を下回ると予測されます。

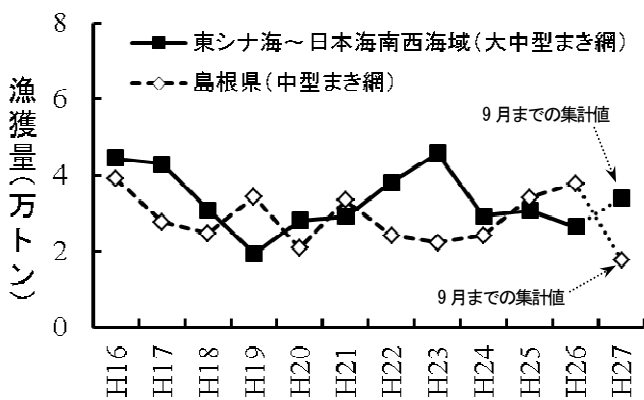


図 1. 東シナ海～日本海南西海域 (大・中型まき網) および島根県 (中型まき網) のマアジ漁獲量の推移
※H27 は 9 月までの集計値

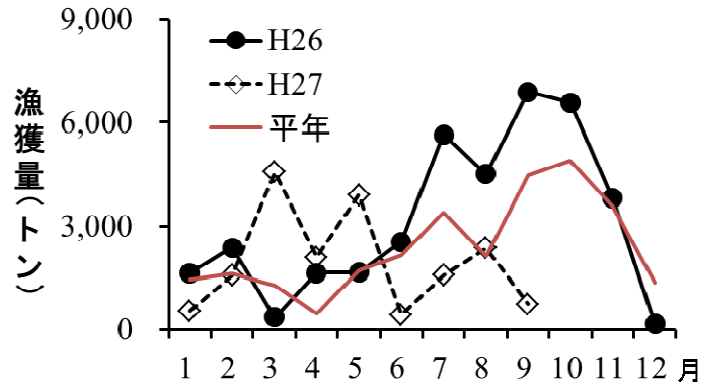


図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大・中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成 19 年以降増加傾向にありましたが、平成 22 年から減少傾向となり、平成 26 年は約 2 万 2 千トンとなりました (図 3)。平成 27 年は 1~9 月の漁獲量が約 2 万 8 千トンで、前年を上回っています。

沖合域の今後 (11~3 月期) の漁況は、来遊量が前年並みであることを反映して、前年並みであるとみられています。一方、同海域の沿岸域における平成 24 年 4~8 月期の漁獲状況は、前年・平年を上回りました。直近までの漁獲状況から今後 (11~3 月期) の漁況は、前年並みで平年を上回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成 15 年から 1 万~1 万 5 千トン程度でほぼ横ばいで推移しています (図 3)。平成 27 年の 1~9 月の

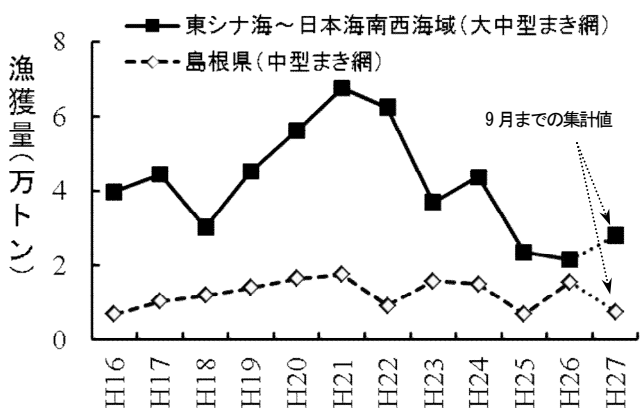


図 3. 東シナ海～日本海南西海域 (大・中型まき網) および島根県 (中型まき網) のマサバ漁獲量の推移
※H27 は 9 月までの集計値

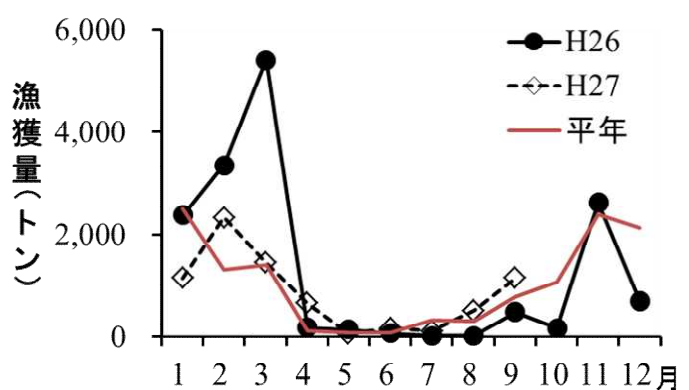


図 4. 島根県の中型まき網によるマサバの月別漁獲動向

漁獲量は約 8 千トンで、前年同期の 6 割、平年同期の 1.1 倍でした。例年、10 月以降が主漁期となり、0 歳魚主体の漁獲で 1 歳魚以上が混じります（図 4）。0 歳魚（H27 年生まれ）、1 歳魚（H26 年生まれ）の来遊量は、これまでの漁況経過から前年並みであると考えられ、漁獲量も 9 月に 1 千トン、10 月に 5 百トン（速報値）と前年と類似した動向を示していることから、山陰沖の今後（11～3 月期）の漁況は、前年並み（約 8 千トン）になると予測されます。

マイワシは前年を上回る

山口県～長崎県の沿岸域では、4～8 月期は山口県、福岡県、長崎県が前年を上回り、佐賀県、熊本県及び鹿児島県は前年並みか前年を下回る漁況でした。平成 27 年生まれの豊度の評価は、漁況の経過から前年を下回ると考えられています。

一方、島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成 14 年から平成 22 年までは多い年で 4 千トン程度でしたが、平成 23 年以降急増し、平成 25 年には約 3 万 6 千トンの漁獲がありました。平成 26 年の漁獲量は約 8 百トンと大きく落ち込んだものの、平成 27 年 1～9 月までの漁獲量は約 2 万 7 千トンと前年・平年を大きく上回りました（図 5）。

本県沿岸における今後（11～3 月期）の漁況は、山口県～長崎県全体の漁況と比較すると現在まで好調に推移しており、10 月に入って約 4 千トン（速報値）の漁獲量があることから、前年（約 1 百トン）を大きく上回ると予測されます。

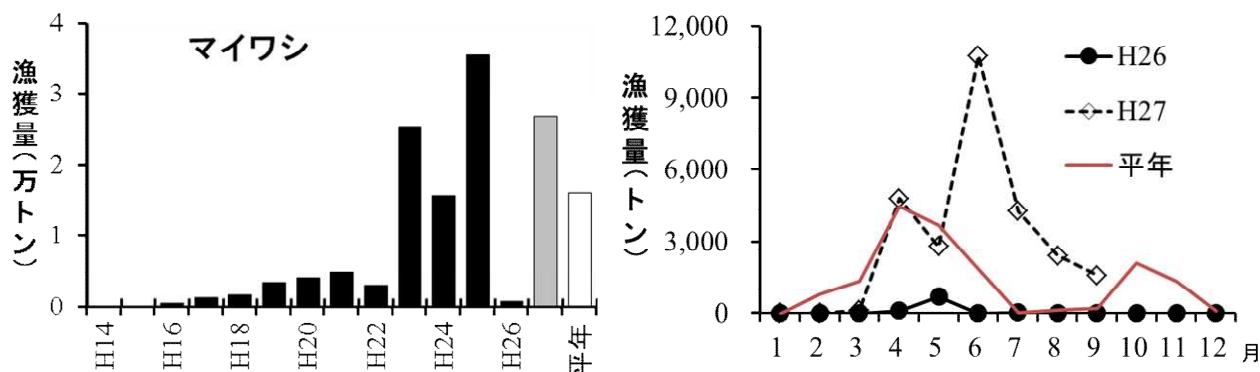


図 5. 島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H27 年は 9 月までの集計値

カタクチイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 15 年に約 1 万 5 千トンの漁獲があった後、増減しながら 1 万トン前後で推移しています。平成 27 年は不漁であり、主漁期である 3～4 月はほとんど漁獲が無く、1～9 月までの漁獲量は約 4 千トンで、前年同期の 4 割、平年同期の 3 割でした（図 6）。

過去 5 年間でみると、11～3 月期は 3 月以降が主漁期で、1・2 歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、カタクチイワシの 1 歳魚（平成 26 年春生まれ）は前年を下回るとされています。平成 27 年の漁獲動向は、9 月、10 月（速報値）ともに約 2 千トンの漁獲があり、過去の漁獲動向をみると、秋季

に漁獲があった年の次年は、春季に漁獲が増加する傾向が見られました。しかし、1歳魚が前年を下回ると推定されていることから、本県沿岸における今後（11～3月期）の漁況は、3月が主漁期となり、前年並み（約7百トン）になると予測されます。

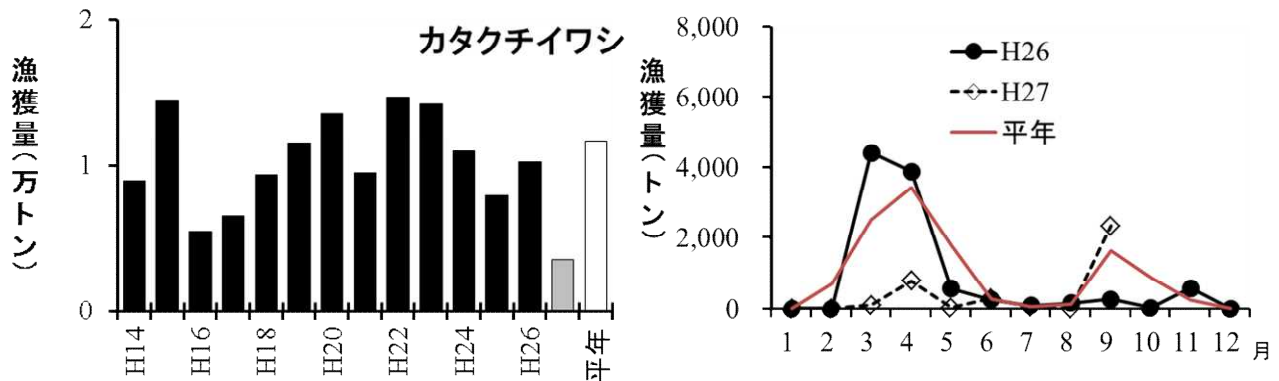


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H27年は9月までの集計値

ウルメイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成23年に約1万6千トン、平成25年に約1万2千トンと豊漁だったものの、平成14年からは概ね4千～9千トンで推移しています。また、昨年は不漁であり、約6百トンの漁獲となりました。

平成27年のこれまでの漁況は、1～9月までの漁獲量が約2千トンで、前年同期の3.8倍、平年同期並み（1.0倍）でした（図7）。

例年、11～3月期は、0・1歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、0歳魚（H27年生まれ）、1歳魚（H26年生まれ）の豊度はそれぞれ前年を下回ると考えられています。

本県は例年10月にまとまった漁獲があります。しかし、今年10月の漁獲は約8百トン（速報値）と、前年と同様漁獲量が少なく、本県沿岸における今後（11～3月期）の漁況は、不漁であった前年並み（約8百トン）で、平年（約4千トン）を下回ると予測されます。

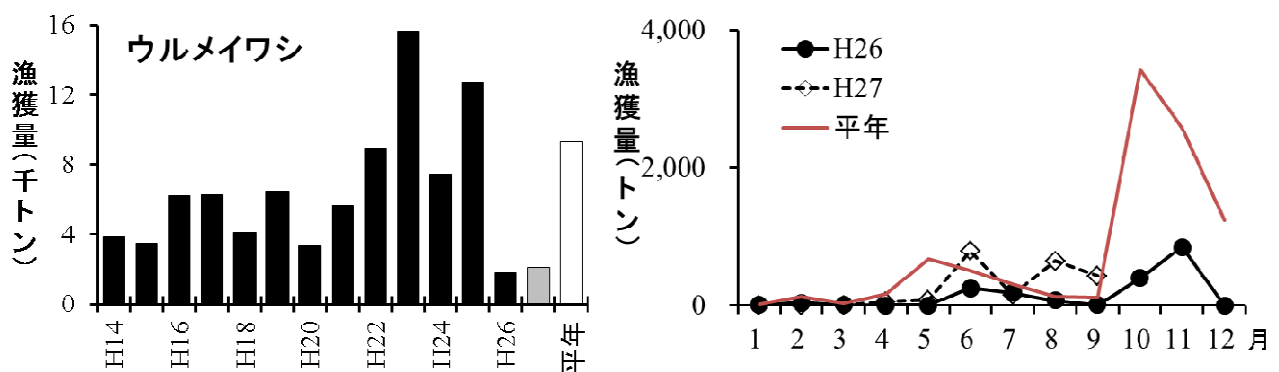


図7. 島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H27年は9月までの集計値